



Title	特殊講義案 都市と村落 (2)
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1966
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77352
Type	manuscript
Note	資料作成年不明（システムの制約のため、発行日には没年を入力した）
File Information	N043_012.pdf



[Instructions for use](#)



HIGH CLASS
NOTE BOOK

特殊講義單
都市と村落
II (2)

イト都系研究から脱落と都系研究の概観。
 (イトIV) M 都系研究の概観の
 主要事項

一般に研究の概観は研究は者外とし
 二、都系人としての研究の概観
 三、都系研究の概観

都系人としての一般に於ける措置
 四、都系研究の概観

一日の生活の中での都系研究の概観
 (男女別) 別

人同一代史、人同一代史 (イト都系研究から)

二、都系と田舎者研究の別
 三、都系と人研究の別

都系研究の社会措置の概観

問題

一、都系研究の社会措置の概観

二、都系研究の社会措置の概観

三、都系研究の社会措置の概観

四、都系研究の社会措置の概観

五、都系研究の社会措置の概観

六、都系研究の社会措置の概観

七、都系研究の社会措置の概観

八、都系研究の社会措置の概観

九、都系研究の社会措置の概観

十、都系研究の社会措置の概観

一日の世帯生活の生活行為の時間の
乱れがある。それは余暇集団の
同好による。余暇集団(型)としての
生活集団と地通集団。

社会、
世帯と職。学校は専任職と兼任
五つの集団の相互関係。その関係
構造

電通調査

この都市放棄懸念
調査し第二回1954年
新聞

正帯人

同じ新聞に
今より後方にも少くは人がある時業
も持つ。寂しいかんといふ所。
隣家は

の中に秩序や何れを定むる人

都市生活の混乱不統一

都市の社会生活は混乱不統一を招き出す原因

考へておいてみる。その水が都市の一つの脈絡の形

にたつくとする。この混乱は都市の種々の分節を試

みまうには不可能であるとする。故に表裏一致する。

私は今この都市の社会措置把握の為に都市

の最良な状態なるものとしての因念即ち試みをする

か。けれどもその試みは成否不明なものである。

都市生活の最良な状態にありたい混乱して居る

か、である。

都市の社会生活の混乱して居るとするものは

何であるか。葬式のある隣家は天八の命を

◎ 勤王の世に行くと人々を勤王とする
日人をもよ。

ニテ軒先の家へ教人提があつても
全く分りなす。来り候むと一宗が
来り出て行く一宗と云ふ。

隣席で

しと云ふ。徳島と縮むかパタンと云ふ。勤王

犯の紐も不審な全運知を云ふ。軍口を義と

と平和を義と云ふ。旧い傳統と云ふ。今程か

並立して云ふ。勤王もさう云ふ。二ツの程

勤王並立して云ふ。勤王と云ふ。勤王と云ふ

情慮云と邪。暴方と知性。天白皇太子

と其意を云ふ。◎ 勤王と云ふ。勤王と云ふ

太の如き。勤王の如き。勤王の如き。勤王の如き

事の如き。勤王の如き。勤王の如き。勤王の如き

の勤中。勤王の如き。勤王の如き。勤王の如き

勤王は勤王。勤王の如き。勤王の如き。勤王の如き

勤王は勤王。勤王の如き。勤王の如き。勤王の如き

勤王は勤王。勤王の如き。勤王の如き。勤王の如き

何か處理して置く年暇があるの
ではなにか。

多量の塵埃を混入して居る

油脂の成分を分析する為には

は、先づ塵埃を除去する事

が重要である。油の成分は

の成分である。この塵埃の成分は



は、を念のためこの
点の注意

都市の生活の中に射し込む塵埃

垢が混入して居るのにはないから

うか。都市の現象の中心は

ある。組織的や秩序は

甘塵埃垢にかくれ、その

形のか。

多量に蓄積して居る花の白雲

のあり、4年木葉の成長したる時

おろくして片とは果常であり、死を得

つ老人となつて、何つ学校に行き、何つ

る。は、何つ帯である。

二に、何つ帯とあるのは、その型にある人

んか、何つ帯であるか、と云ふは、何つ帯は、ない

これは生活の存続の為に、何つ帯は、何つ帯

である。型か、何つ帯であり、その型の生活は

此の生活の存続の為に、何つ帯は、何つ帯

その型の生活のみがある。これは、何つ帯は、何つ帯

消滅すると思ひ、何つ帯は、何つ帯

消滅すると思ひ、何つ帯は、何つ帯

この世に
何のや規則性を見出す

子
と

私は都市の最も複雑なものは

れは田舎町を分けてとることにし

流転があらばかりであるを知った

時の都市の社会生活のなかで

塵土狼煙にいつてはたへた^{田舎}の^{生活}

何れ都市生活にたけは^{塵土}の^{生活}

であるか。

私は都市の最も複雑なものは

私自身と私の家族を知りた

る知人友隣人の生活について

考へてみた。

私は五十年の日の生活

いつては、都市の生活は如何

観察

この世に

子供か

である。子供に行かぬ子供は否か

の存続にゆずるは否か、総ての子

供が子供に育つ文化の存続は

否か、文化の存続は如何か。

此年を働かぬより、此年を働かぬ

に付するよりは、働かぬ人は如何か。

此は文化の存続は如何か。

文化の存続は如何か、文化の存続は

如何か、文化の存続は如何か、文化の存続は

如何か、文化の存続は如何か、文化の存続は

如何か、文化の存続は如何か、文化の存続は

如何か、文化の存続は如何か、文化の存続は

④ 異調を認めて居る人の存在を如何に異化して居るかを知らん

⑤ 是れは如何にして居るべきか。是れを自他の程として之れを不潔とした人は如何なるか。

一枚

⑥ 異調なものであるが、この二に都市の進化を思はせるとよからぬ

を考へて、前かに結語を出して、後このものは、都市の進化を考へて、

此の二に、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

十の生活に於いて、如何なる生活の相違があるか。

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、都市の進化を考へて、

三種の英学を... 田舎の痛弱を...
い無事(身体此迄は健全)であるが、それは生業の
外
迄の如き人の土俗不ものと見ゆ。

①
この現はれた田舎人の見所のなすは
は、その名物である。(江中島報を参考)

一、精神薄弱なる、身伴錦帯、意欲乏
二、不潔、服汚し

三、この現はれた田舎人の見所のなすは、
は、その名物である。(江中島報を参考)

色んなその田舎の現はれた田舎人の見所のなすは、
は、その名物である。(江中島報を参考)

子供、学業を去り、職につかぬ者、及、
主婦の立場、主婦の立場、主婦の立場

三才以上の
三才以上の

要するに、これに職業は、つくり、生業に
か、田舎人の生活、生業、生業、生業、
主婦の立場、主婦の立場、主婦の立場

洞元全口市部、有、生業、洞元全口市部、
と、比較して

本島の結果を、と、して、と、して、と、して、
と、して、と、して、と、して、と、して、

常、新、人、中、地、産、人、に、構、成、国、を、
と、して、と、して、と、して、と、して、

飛、僅、少、り、あ、り、あ、り、あ、り、あ、り、
と、して、と、して、と、して、と、して、

何、水、の、都、市、に、つ、いて、大、作、と、同、格、に
と、して、と、して、と、して、と、して、

何、水、の、都、市、に、つ、いて、大、作、と、同、格、に
と、して、と、して、と、して、と、して、

何、水、の、都、市、に、つ、いて、大、作、と、同、格、に
と、して、と、して、と、して、と、して、

何、水、の、都、市、に、つ、いて、大、作、と、同、格、に
と、して、と、して、と、して、と、して、

何、水、の、都、市、に、つ、いて、大、作、と、同、格、に
と、して、と、して、と、して、と、して、

何、水、の、都、市、に、つ、いて、大、作、と、同、格、に
と、して、と、して、と、して、と、して、

正常生活

放送局 民生生活の調査

都市部での生活の調査
三葉草社

次に一日の生活について述べてみる。

一日の生活については、先述と同様に、概して、

適当である。即ち、幼少志士は、

この^{時期}若者時代の生活は、正統な老年

生活の生活の形に、その生活は

最も多く、又、水を、正統な生活の形

に、その生活は、その生活は、

幼少志士の生活は、その生活は、

その生活は、その生活は、

その生活は、その生活は、

その生活は、その生活は、

その生活は、その生活は、

その生活は、その生活は、

それと異つても皆何れも正帯の人を
の人は職務か為れ^て居し^て片^もこ
に^は相違ない。尤^も商人の命令は職務か
世帯と一^つとして片^もとして^も道徳
は同じである。

然しは都市に於ける正帯人との
皆所屬して片^も最^も又^も免^れる^る所^を集
團は職務か^を為れ^て世帯の
民云つてを^も事^はは異^なる^る所^をい^ふこ
うである。この三つの正帯^を其^の本
的^な集團と云ふ^は都市^に於^ては^もた^りあ^らず^に
然し^は為れ^て後^にい^ふべ^きは^もた^り相^違ひ^ない[。]

職場と同一に分類するべきである。

その結果において、職業の分類の平準

を為して片のものを、生活の行く為の

最低限の生活に必要を生活の平準と

云ふべきものとして、職業の分類の平準

を思ひよすか、或るものか、或るもの

職場を包含する概念として、生活の平準

と云ふ語を用いよすか、或るものか、或るもの

らうか。

文字は充分に活字し得るべき知力を

有する人、或る人、同生活に必要を

生活資料を有するものは、最低限の生活

に

下の活動である。比活動を為するには

毎日活動的に活動せしむるに付て

その準備には暇をとりしむるに付て

何れも先きを果す事である。

却ては若者の力も比活動から解放

されし。若しを果す事か不可能である

が故である。故に若者も是は自らの

活動の爲の外に老幼の活動の爲め

も活動せしむるに付て。一先程に付て

云へば、その活動が社会生活の爲めである

者等に於ては、~~此~~。此の活動は世

帯と職、地域、非、集団を基礎として

或は生活集団

牙二書(四)

とあるより、是れから考へよう。然し他には
人々も集団が考へてある。

角に、この常人の口の上で常生活について考へ

る。この常人の生活は世帯と群衆

とを区別するより外に、どんな集団に

属するかと考へてある。

前者は、^{生活}に於いては、宗族の甲に於いてある。

場合は一宗の最大の不孝である。この不

孝の最大の原因には、宗族が、^二片である。

あ、^二片の宗族が、^二片の宗族を、^二片の宗族

に考へよう。

昔、^二片の宗族を、^二片の宗族に考へよう。

調査した結果に於ては、¹⁾ 隣村の人との
 関係、血縁などの関係、²⁾ 近隣の人との
 関係、遊味娯楽の関係の人との関係
 加えて、³⁾ 水たき、草刈り、香典贈り、⁴⁾ 調査に
 対して都市に於ける住民は⁵⁾ 訪問の
 関係を調査した結果によれば、毎月訪
 れる家毎週訪れる家と毎月訪れる家
 とに一回位訪れる家とが、⁶⁾ 以上の
 関係は、⁷⁾ 隣村関係の人、血縁
 関係の人、近隣関係の人、遊味娯楽
 関係の人、⁸⁾ 訪問には認められな
 かった。

この字のつぎに、
尾田が、
てい

職場
奥線

近降

近味、娯楽、非常、思想

この国は、
女に即ち

信託が形成して、
等閑とかく

の如き、
等閑とかく

足りぬ。

職場、
等閑

血縁、
等閑

近降、
等閑

近味、
娯楽、
等閑

右の内職域集團が世帯と共々都市

先住に於ける基本的集團と考へべき

既に述べた通りである。

この血縁集團と云ふは親戚又は同

族の關係の上の形成である片は集團

であるが、それ後家族を累縁として

そのものなり。と云ふべき。血縁關係の

成り立ちより自分から推察して片

家族が最も強固な血縁集團と云

ふ事分際である。家族は都市に於

ては、その山田流の形態としてその極

の形態を包摂して片は世帯と云ふ

便利に

漢に留りて都市の宗族は去りて居

ると思ひし。而してかくの如き世帯

都市の存在構造に於ては、基本的に集

團である。予り既に述べた如き事である。

然しこの事は、都市を起す事、血族

共同の団結に於ては、必ずしも必要

な近隣共同の団結である。都市に於て

は近隣は一般には村境に於ては、不

如く集團下にはなく、寧ろ同族である。

けれども、^{都市}人口の都市に於ては、調査系

の調査を以て集團を以て近隣

加意の外は多量である。これは、都市中

の町内や田舎の遺物で、そのもの
多量とともに出るけれど、これは
多量とともに出る。私は、この
的集団を、地を集団と云う。一
次に、趣味、娯楽の集団である。文化
団体、スポーツ団体等として、一
層、そのものは、政治的結核、作
結核、研究団体等、同様のもの
米口の、多量とともに出る。余
ととも、そのもの多量とともに出る。
正統の、そのもの多量とともに出る。
正統の、そのもの多量とともに出る。
正統の、そのもの多量とともに出る。

保し

夫れがのちを後年一年を通じて行はるべき
 ありしかば、是れがどの程なるか、官や守
 記や工場の所には、勤勞は二の字、情を明
 らかにして、其の空知を、亦すすべし、左
 人の勤務は甚しく、教訓的、是れを破れ、
 皆今は甚く少い。
 知し、何十、何百、何千、何万、何十、何百、
 には、執り、人が集まり、遊費、故には、何
 此、空、お、た、へ、な、一、男、書、の、活、を、は、何、十、何、百、
 系、ん、に、し、て、甚、く、比、率、は、少、い、か、何、十、何、百、
 万、の、中、に、は、二、の、億、少、の、比、率、も、空、知、は、皮、照、と、大
 と、ち、う、う、即、ち、は、小、を、十、地、其、れ、集、ま、り、と、ニ、り
 の、集、ま、り、は、大、群、の、あ、り、

経済的の都市集(国)は

一、世帯 二、地域集(国) 三、地区集(国)

四、生活拡大集(国)

右の四つの集(国)に都市のまじり集

園が包(入)る。存在する。

世帯が都市生活の細胞、地域集(国)

が都市生活の細胞である。

都市は右の消費生活の細胞の集合

生活の細胞を基礎として作る。

右の二つの集(国)の中には消費生活の

集(国)がある。甚し生産に

なる人はある。消費した人は皆

とあるからである。

世帯

地区集会所と生活協会の集会所は都

市の上層部^連築で地区集会所は世帯

の上層部築である。生活協会の集会所は

職域集会所の上層部築である場合も

多いからである。あるいは世帯即ち集会所

を上位として片よりの部と相対して他人を

下位として片よりの部と相対して他人を

下位として片よりの部と相対して他人を

家族が世帯であり世帯が同様に職域

であったが近代から生産様式が

変遷を遂げた世帯の外に大方は職域

都市行政体

代化は家族都市より職域都市
への転換をいふのである。

都市の行政上の地方自治体としての構成は概
然は右の様な集団配列の中へ個人を
位置を占めて居るのである。

自治行政とは云ふも、各都市の行政

は国家行政の一種である。国家の法規
の上に基き居る。

行政の機構と運営は市民が選挙

して市長及び市会によりおこなはる。

に過ぎない。

各は一人一人の
法律上選挙出する市民である。この

個人は自由平等の者が、国家

大佐に

選出する人の意志は他人の意志に
世帯の意志である。或は職域の
意志である。

其れ故に市の三十六人の議員中廿五名は
各派別を以て同志が二十三名である。

各派別を以て同志を以てするといふのは
のりな事である。

市行政の秩序の中にも選挙の中にも
事實上世帯と職域を大なる差を
認むべきである。

市行政は自治であるといふ事一人くは
氏と市行政機關との区別は甚だしい。

市民

市行政の世帯の上の構築の工とみよか

職域集団の上の構築の工とみよか

自治体の運営のあり方と人々の運営の

方針の方向性強を大なり程か定めよ

その方針は有るかあるか。と云ふのたよ

あり。国家の行政の上の起原かあ

り都市連合体による定めよと

業あり。とし、僕から強よよと

中探見の部分については大なり

行政の意向が大きな力をいっ

は他の一般の社会に於ける同様

か一人一人の市民として市行政機関

は遠く存在する。その近づく程に大規模
の地味と力、その令く市の化すべからず^地新設上の
政街は市民の^地課金の存在である。
市政に對して強いつの發見力もせしめ下
施政に對して^地分の税課も持たせたい。
然しとん向市自治体は市民の地味
係であり市民のみの地味係である。是れ
は市民の協力せしめ、~~その目的は~~
すべからずの品場をなせる地味である。
都市は果敢に存在する。地味白様
能に地味より^地地味を果すのである。
果敢に存在は協力^地地味の新設

をいって并べたのである。この高才の家の

総論として果敢に責任を自治体

への責任を自治体は口実行政の二種に

ある。口実の自治体は果敢に

には自治体の政治的責任は常

あると見做す。持論は自治体

の責任は、大抵は人の責任

である。特に政治的責任は

世帯とそれ以外のものを

わくわく政治の責任政治的

近知也もまた近代性の何れ

有して并べたのであるから

日 本 政 府

正帝と異帝とは界に教養の上で大教に

好し少表の異位を五女のつはたははへ生

直系の子孫の村世に身力者の夫婦宗族

を田舎者として五女のつはたははへ生

此型の相異は外なす如

私女と田舎者として生も、人同生活に本質

的なきを、生も、生も、田舎者として

先途、向生も、生も、生も、生も、生も

生活、生も、生も、生も、生も、生も

郊外に正帝生活と田舎者、先生活みよと

若くは、田舎の田舎、大形、生も、生も、生も

は、正帝生活の中、日中、御く人と生も、生も

深、夜、生も、生も、生も、生も、生も

類、生も、生も、生も、生も、生も

日 本 政 府

又、新しい市民の生活時代の到来による
大なる生活の改善は、是れより、大なる
時代の多岐のすれを要す。すれは、
その又、田舎者先法を棄すの法なく、
少教の市民を、是れより、
すすものあり。

私自身へて、是れは、
病弱、不健康、不意、
狂人である。是れは、
能力、
を、
存す。人々の先法を、
勤勞す。能力、
存す。

能力、
存す。人々の先法を、
勤勞す。能力、
存す。

日 本 政 府

Culture による Personality は 控制 され

る。その存在物は明らかな法則を有する。

すなわち、その意味の Personality は individual

Analisis of character による。他人の存在

の存在は、その存在による。それは、その存在

人の存在による。その存在による。その存在による

の存在による。その存在による。その存在による

の存在による。その存在による。その存在による

の存在による。その存在による。その存在による

の存在による。その存在による。その存在による

の存在による。その存在による。その存在による

の存在による。その存在による。その存在による

の存在による。その存在による。その存在による

日 本 政 府

では生活時代の型による人口の種別比率が
か多額である。一人の年数配達が総
踏で働いて片と同じ時刻には何千の人は
皆一枚に送達して片。一人の犯罪者の
生活は数千の正帯の人々の生活より目立
てて見えてくる。都市には犯罪者も
多く、究り犯罪者は都市の印象をへた。よ。
は九と正帯の市民は五の何千倍も
生活して片。都市の数字に比べて
都市人の生活を除きして正帯人の生活の成
規律性をおしあきるとして片と現はる
ては有る。

